

整備計画における新規ダム代替案の検討

新規ダムの代替案として遊水地を設置する場合

1. 検討内容

- ダム事業量の県負担分である事業費 150 億円を遊水地に投資した場合、遊水地の規模及び分担量ほどの程度見込めるのかを検討する。
- ダム施設の代替案としての遊水地はこれまで検討を行ってきた河川施設としての遊水地 3 箇所を候補として検討する。
- 対象規模は整備計画レベル（ここでは 1/30 とする）で検討する。
- 青野ダム（事前放流実施 50m³/s 定量放流）及び遊水地（県有地）の整備前提で検討する。
- ここでは流域対策効果量は見込んでいない。

2. 検討結果

2.1 整備できる遊水地容量

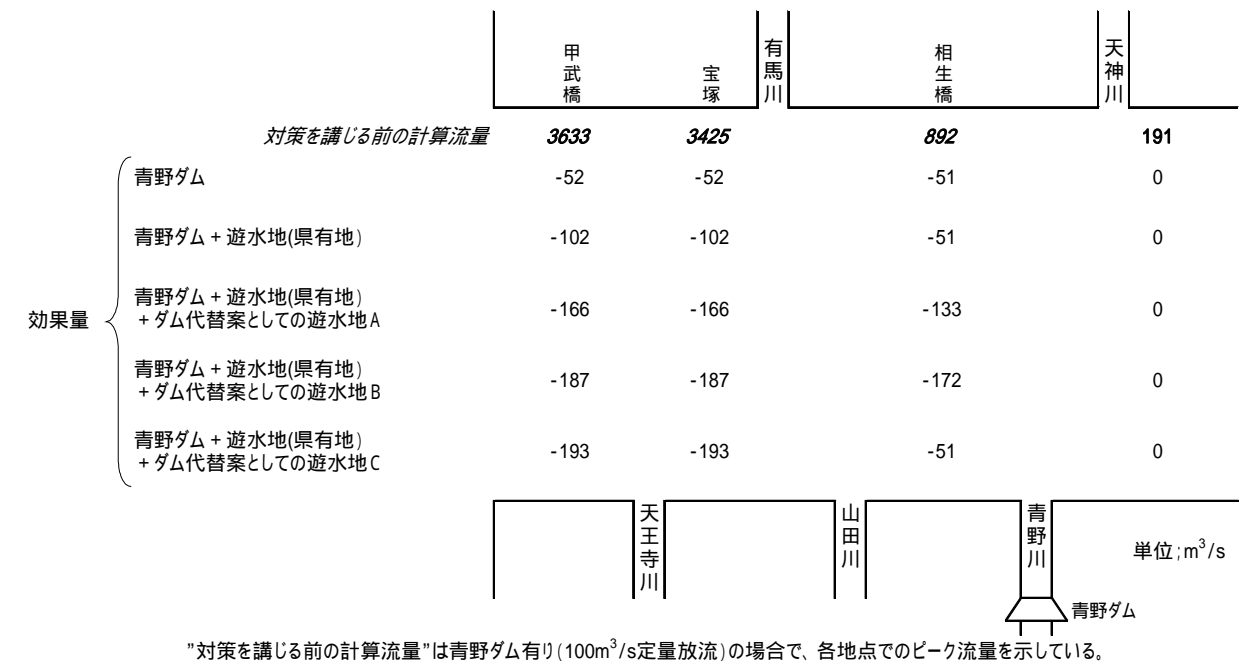
- 遊水地 A（貯水容量 V=1,160,000m³）、遊水地 B（貯水容量 V=1,580,000m³）、遊水地 C（貯水容量 V=540,000m³）における総事業費は 640 億円である。
- 150 億円の事業費では上記 3 箇所の遊水地の内 150/640=0.23（23%）程度の整備となり、貯水容量では 754,400m³程度となる。

遊水地諸元一覧表

遊水地	貯水容量 (m ³)	水深 (m)	概略面積 (ha)	事業費 (億円)	甲武橋地点効果量 (m ³ /s)
遊水地 A	754,400	6.0	18	150	64
遊水地 B	754,400	6.0	18	150	85
遊水地 C	540,000	6.0	13.2	108	91

2.2 新規ダム代替案としての遊水地の効果量

- 新規ダム代替案としての遊水地 A は 166-102=64m³/s の効果量となる。
遊水地 B は 187-102=85m³/s の効果量となる。
遊水地 C は 193-102=91m³/s の効果量となる。



ダム代替案としての遊水地による効果量算定結果（H16.10.18 型降雨）